

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ふれやか東藻琴館
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	北海道網走郡大空町東藻琴538-4
記入者名 (管理者)	坂矢 優美
記入日	平成 20年 10月 23日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念に作り替えた。	○ 今後も、その時の状況に合わせた理念に作り替える検討をしていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間で話し合いにより決め、館内数箇所に掲示し、いつでも確認出来るようにしている。ご家族面会時、来館者の方にも目に留まるようにしている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関先、事務所での掲示、パンフレットへの記載により、理解していただけるようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内行事へ参加する事により、地域住民との交流を図っている。又、近所の方から野菜等の差し入れもよくいただく。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事へは進んで参加し、交流を図れるよう努めている。	○ 町内会へは未加入であり検討している。地域行事への参加、外出時等の地域の方との交流をさらに増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ご家族や面会者の方から、身の回りの認知症の方についての相談を受ける事がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の自己評価、外部評価を経て、全職員で質の確保、改善、向上にと取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年以降開催出来ずにいたが、近々開催予定としている。	○	構成員は決定しているが、前回メンバーとの変更もあり、改めて施設紹介をし、意見や要望をいただき、サービス向上に活かしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年度より、地域ケア会議に出席している(管理者)。地域包括支援センターや在宅介護支援センターの職員の方に相談やアドバイスをいただいている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されている方が入居され、関係者・担当者の方と話し合いをし、円滑に継続出来るよう配慮している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、職員全員が理解しており、日頃より入居者の状態を把握し注意している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居確定～入居時にかけて、十分な説明を行い理解していただいている。退居時も同様にしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の表情や言動から、不安や不満の兆候を察知し、お話を伺い、またご家族にもお聞きし、その都度速やかに対応するよう心掛けている。	職員間でも話し合い、ケアの統一化を図っている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には近況報告をしている。また、健康面・精神状態については、その都度報告している。暮らしぶりは、毎月発行の通信によりお知らせしている。金銭管理についても毎月報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	館側は、いつでもお聞き出来る体制にあり、苦情受付窓口等の案内もしている。出された意見等については、すぐ話し合い反映させている。また、玄関先に意見箱の設置もしている。	○ 家族会の設置を検討したが、多忙・遠方等を理由に断られたので、個別に対応している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者、管理者共に、職員の意見を随時聞く体制である。また、ミーティングにおいても場を設けている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の急変、ご家族対応不可能時等、要望に応じ柔軟な対応が出来るよう調整している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職は回避出来るよう考慮しているが、止むを得ない場合が多い。入居者やご家族の不安は最小限となるように配慮している。また、新しい職員配置の際も、入居者・ご家族に紹介している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	近隣の研修会等には受講出来るように配慮している。また、報告の機会を設け、職員全体で共有出来るようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年同様、他施設よりイベントのお招きをいただき、参加予定であったが、悪天候のため出向けなかった。	○ 今後は、当館側からも招待し、交流を深めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に配慮している。休憩室もあり、休憩時間の確保、体調に応じ休めるようにしている。また、休日希望は本人の意に沿うようにしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は頻繁に現場に来ており、入居者と関わりを持ったり、職員の業務や実績についても把握している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	関係担当者の方から事前にお話を伺い、把握した上で本人・家族面接を行っている。また、スムーズに支援出来るよう、職員間でも話し合っている。	本人・家族の都合が付けば、事前に見学に来ていただき、職員や入居者との顔合わせ、一緒にお茶を飲む等の交流も図り、馴染んでいただけるよう配慮している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	それぞれの家族の求めている事を理解・把握し受け入れて、安心出来るサービス提供を心掛けている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い・状況を確認・考慮し、必要とされる支援の提案をし、実行している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	当館側より面接に伺い、また、出来る限りご家族と共に見学に来ていただいている。場の雰囲気を感じていただき、なじみの関係の構築に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩であるという気持ちを忘れずに接している。入居者から教わる場面も多く、常に感謝の気持ちを伝えている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子や関わりを伝え、入居者を支援する協力関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者と家族の関係を把握し、お互いの気持ちが結びつくよう働きかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族・知人・友人などの来館を快くお迎えし、ゆっくり過ごしていただいている。電話や手紙等、通信の支援も行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が入居者同士の関係の調整役となり、トラブルを未然に防ぐ努力をしている。清掃、炊事等は分担し協力して行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族にお会いした時には、その方の様子等、お聞きしており相談に乗ることもある。また、転居された方本人へ面会にも行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望・要望に基づいたケアを心掛けている。また、本人にとって、何処で、どのように暮らすことが最良なのか、スタッフや家族とも話し合っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生い立ち・環境・病歴等を、本人・家族・関係機関等から得て、把握に努めている。プライバシーにも配慮し、家族等と共に支援している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活の中で、何が出来るのか？何をしている時が快適なのか？等の把握に努めている。新しい発見があった際には記録に残し、共有出来るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族来館時に、努めてご意見ご意向を伺うようにしている。計画を立てる時は、ミーティングや日常介護を見たり本人とよく話しをして作成している。		「ゆっくり、よりそう」ケアを目指して、少しの時間にもスタッフの意見交換を行っている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入退院時や急な変化にも、スタッフと話し計画を見直している。計画変更、状態変化時は、ミーティングで報告、ご家族にも連絡している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別生活記録を詳しく、具体的に記入している事により、スタッフ全体で共有し、計画見直しをしている。		勤務開始前に生活記録を読み確認している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の緊急時等のご家族に連絡すると共に受診同伴するなどの対応をしている。また、外出・外泊等も随時対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者が安心して生活出来るよう、地域の方々にも協力いただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の希望や状況に応じて、ボランティアの訪問や出張理容なども行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	様々な事例について、地域包括支援センターの職員の方に相談したり、地区のケア会議に出席することによりアドバイスをいただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医での医療を重視し、また、協力医療機関とも連絡・相談をしながら、家族と協力し通院の為の支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のプライバシーに関する内容は他入居者に聞こえぬようにしている。プライドが傷付くような言動が無いように、特に身体介助の時には配慮している。	個人情報に漏れぬように、他入居者等に見える名前等にも注意している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	何かをする時には、声かけをし表情等を見ながら気持ちを確認するように気を付けている。特に食事や入浴の際は無理に押し付けないように本人の意思を尊重している。	入居者皆に満足していただけるよう、色々なアイデアを出し、試してみて、一人ひとり様子を観察し、更に良い生活が出来るように日々改良している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事、買い物等は、入居者の体調・様子を見ながら時間をずらしたり等、配慮・工夫し、柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個人の好みや志向を尊重し、髪型や服装なども決めている。清潔を保てるように、身だしなみにも配慮している。また、ご家族にも協力いただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好み等を把握し、メニューも考えている。音楽や会話で楽しい雰囲気の中で食べていただけるよう配慮している。体調・状態を見ながら、入居者と共に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者の健康管理を第一に考えた上で、主治医の許可の範囲内で支援出来るようにしている。食事やおやつ等はリクエストを聞きメニューに取り入れている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を使用し、介助の必要な方には2時間前後でトイレへの誘導を行っている。		誘導時の拒否があった場合は、少し時間を置かず、他職員と交代し誘導する等柔軟に対応している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴剤を使用し、皮膚の乾燥防止やリラックスして入浴していただけるように配慮している。脱衣室・浴室・お湯の温度管理にも気を付けている。		入浴を拒否される方については、職員交代する等、柔軟に対応している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	傾眠中の方には、声かけし居室誘導し休息を促している。一人ひとりの要望を伺い支援させていただいている。		日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、寝付けない時は、添い寝をしたり、温かい飲み物をお出しする等配慮している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器拭きやテーブル拭き、掃除、洗濯物の干し・たたみ等、一人ひとりの出来る事を見つけ、楽しみ事を支援している。		男性入居者の方にも、声かけし食器拭きやモップかけ等をしていただいている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全入居者の金銭は、本人やご家族の希望によりホームでお預かりしている。		金銭管理の出来ない方には職員で対応している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、職員やボランティアの方の声かけ・同伴により外出、散歩をしている。散歩に行けない時は、ベランダや芝生に出る等、外気浴・日光浴も心掛けている。		屋外に出る事に抵抗のある方、体調等により、見合わせる必要のある方には館内運動も取り入れている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域での催し物や行楽地、観光地への外出を行事として職員で取り組んでいる。		ご家族へも通信や電話、来館時にお知らせし、参加を呼びかけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用可能であり、要望により介助している。便箋・葉書等の準備もしている。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来客された方には、面会簿に記入いただいている。職員も、名前・間柄等の把握をし、笑顔で対応している。	面会時間は設けず、自由にいただいている。和やかに面会していただけるよう配慮している。
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、職員は理解・認識し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	医師の指示で処方された薬の目的・副作用等を職員が理解し関わりを持っている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外の施錠はしておらず、自由に出入りしていただいている。居室も鍵はかけていない。	徘徊がある方には、その都度声かけを行い、無理に止めるのではなく、納得し落ち着いていただけるようにしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は見守りし安全に生活していただけるよう配慮している。夜間は巡回をし、様子の変化の把握をしている。	転倒危険のある方には、センサー付きマットを使用いただき、行動を把握出来るようにしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自分で管理出来る方については、爪切り・髭剃り等所持していただいている。危険のある方については、お預かりして必要時に使用している。	危険と思われる調理用具・裁縫用具等については、職員が管理・保管している。使用の際は、付き添い一緒に行っている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒の危険の有無に関わらず、どの入居者へも常に見守り体制であり、必要に応じ介助している。内服薬については、名前・日付・内服時間の色分け等、厳重に管理している。	ヒヤリハットを活用し、事故を未然に防ぎ安全に生活出来るよう職員間で常に話し合っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、急変時・事故発生時の対応を検討している。また、職員は救急救命講習を受講している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	連絡網を作成し、入居者の安全確保に心掛けている。副施設長・管理者は防火管理者講習を受講している。	○	運営推進会議において協力体制を依頼していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時、また必要に応じ家族との連絡を取り、説明・理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、及び異常の兆候に気配りし、早期対応している。		協力医療機関との連携を保ち、状況に応じ、指示をいただいたり受診している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れ、誤薬防止のため、複数人で確認、申し送りを綿密に行っている。		症状の変化等、受診時は医療機関へ情報提供している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	歩行運動、水分摂取、排便表を作成し、長期無排便ということが無いようチェックしている。		必要時は、便秘薬・浣腸等で対応し、水分補給の促し、適度な運動支援を行っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の含嗽、義歯洗浄、う歯予防の歯磨きを行っている。		入居者の訴え時、歯科往診を受けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表に食材を書き入れ、重複しないように気を付けている。また、食事摂取表・水分摂取表に記入し量を把握している。午前・午後・入浴後には水分補給をさせていただいている。		飲み込み困難な方には、刻み食やミキサー食で提供している。体重チェックを行い、減少のある方には補助食品を処方いただいている。個々のペースに合わせゆっくり食べていただいている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	一般感染症対策のマニュアルを作成し、職員に周知している。排泄後・食前の手洗い、外出後の手洗い・含嗽を実施している。洗面所には、石鹸、ペーパータオル、手指消毒剤を用意。インフルエンザワクチンは入居者も職員も接種している。		職員は出勤時に手洗い・含嗽を行ってから業務に就く事を徹底している。また、来館者の方にも施行していただいている。外出後は、イソジン含嗽している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週に2～3回の買出しを行い冷蔵庫・冷凍庫に保管している。調理器具は、使用後の洗浄・消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地内には、プランターや花壇・ハウスを設置し、暮らしの場所として明るい環境作りに心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓が付いているので、リビング・廊下には明るい光が差し込み心地良い。リビング・居室や洗面所に生花を飾ったり、観葉植物もある。壁には入居者の作品や行事の写真等を掲示して楽しんでいる。		常に入居者に声かけをし、会話や一緒に歌を歌ったり、笑顔を絶やさぬように努めている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室にソファ・テレビが有り、自由に過ごせる。和室もあり休む事も出来る。また、廊下にベンチを設置し、館内歩行運動時の休憩に使用したり、他入居者との会話の場所にもなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望を取り入れ、自宅で使用していた家具等を持参し使用いただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の良い日は窓を開け換気に努めている。天窓の開放により温度管理もしている。冬期間の乾燥に対しては加湿器も使用している。臭いには消臭剤も使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室等の要所には手すりを設置している。また、廊下には休憩用のベンチも設置している。歩行器や杖を使用されている方もおり、歩行の障害にならぬよう廊下には物を置かないようにしている。		転倒の恐れのある方には、夜間、センサーマットを使用いただいている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の各居室の入り口に写真付きネームプレートを取り付けている。トイレの表示を入居者の見やすい位置に取り付けている。		回路型のホームのため、館内で迷っても元の場所に戻れるようになっているが、そのような状態を見かけた時は、声かけし混乱しないように努めている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内のハウスで野菜を一緒に育て、収穫を楽しんでいる。また、花壇の草むしりやベランダ・芝生上での日光浴もしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

敷地内にハウスを設置し、野菜を育て、季節の物を味わっている。また、季節の草花も楽しめる。屋外への散歩が出来ない時は、体力保持のため、回路型の館内を利用し、本人の体調と合わせて「〇周」と目標を決め、職員と運動している。この際は、ただ歩くだけでなく、歌を歌ったり、掲示物を見ながら、今までの生活を思い出していただけるように配慮している。